

Rotary 週報



第2660地区

The Rotary Club of OSAKA-WEST

大阪西ロータリークラブ

創立 昭和32年6月4日

事務局 大阪市北区梅田1丁目1番3号
大阪駅前第3ビル 30階(〒530-0001)
電話 06-6348-8436 ファックス 06-6347-4556
ホームページ <http://www.osaka-westrc.org>
メール osaka-w@cronos.ocn.ne.jp
例会日 毎週月曜日 12時30分
例会場 ヒルトン大阪
会場電話 06-6347-7111

会長 清水 美 博
幹事 安部 吉 宏
会報委員長 田中 義 久

4つのテスト われわれがものごとを考え、言い、また為そうとする場合はこれに照合してから。
I 真実かどうか。II みんなに公平か。III 好意と友情を深めるか。IV みんなのためになるかどうか。

人類に奉仕するロータリー

ROTARY SERVING HUMANITY

ジョン・F・ジャーム

No 2329 2015年11月21日 第2791回例会

本日のお知らせ

- ◆ R. S. 「我等の生業」
- ◆ 卓話 「ロータリー月間にちなんで」
R12660地区ロータリー財団委員
井上 佳昭 君
(担当会員 仙木 伸介 君)
- ◆ Osaka Great Santa Run 2016 開催
開催日 2016年11月27日(日)
開催場所 大阪市・大阪城公園 太陽の広場
10:00受付にて集合し、10:30スタートの部に
参加します。
今回は Santa Run 終了後、昼食・プチビール同好
会をパノラマスカイレストランアサヒ(OBP松
下IMPビル26F)にて開催します。

次例会のお知らせ

- ◆ R. S. 「手に手つないで」
- ◆ 卓話 「未定」
林 邦彦 君
- ◆ MSU第5回会合開催
例会前11:30より、ヒルトン大阪10階にて開催。

前例会の報告

- ◆ 前例会 (11月14日)の来客者 10名
うち国内来客者 8名
国内ゲスト 2名
- ◆ 前例会 (11月14日)の出席状況
出席会員数(内20名免除会員) 59名
欠席会員 23名
出席規定適用免除会員 27名
会員総数 89名
出席率 71.95%
- ◆ 10月24日の例会の出席率(MJを含む) 80.050%
- ◆ ニコニコ箱 (11月14日分)
 - 誕生日自祝。 市田 晃 君
 - 10月12日以後の約束は全て欠席で、清水会長の大輪会、市田会員の東西会は大変ご迷惑をかけた。笹部会員には色々お世話になりました。
北村 寅雄 君
 - 早退のお詫び。 鴻野 眞太郎 君
 - 第4回清水会長杯で優勝させていただきました。
西ロータリーゴルフ同好会の皆様、ありがとうございました。
松田 佳紀 君
 - 例会欠席のお詫び。 鈴木 公平 君
 - 2回連続欠席のお詫び。 上田 茂久 君

ニコニコ箱 (11月14日分)

クラブ・ニュース

◆ 持回り理事会開催

11月14日に持回り理事会を開き、以下のことを承認致しましたこと報告いたします。

- 1) 指名委員会より来期理事・役員の指名があり、これを承認し、年次総会の議事とする。

◆ ロータリー財団の輝く新たな夜明け(抜粋)

2016-17年度は、ロータリー財団の創立100周年にあたります。世界中のロータリー会員は、1世紀にわたり、人びとの生活をより良くし、多くの人に影響を与えてきました。

今年度、ロータリー財団の第1世紀をつづつた『世界でよいことをしよう：人びとの心に触れた100年』からの抜粋を少しずつご紹介してきます。

設立60年にして、ロータリー財団は重大な転機を迎え、後の主要プログラムとなるポリオプラスの基盤を築くこととなる。その経緯を最もよく語ってくれたのは、ロータリアン、クレム・レヌーフである。レヌーフは飛行機の操縦士として第二次世界大戦で兵役を務めた後、オーストラリア、クイーンズランド州の小都市ナンボーに居を構え、会計士となった。1949年にナンボー・ロータリークラブの創立会員となり、後にクラブ会長に就任。1965年には地区ガバナーとなり、RI理事を務めた後、1978-79年度RI会長に選出された。

ガバナー就任以前から、レヌーフはさまざまな経験を重ねていた。1966年には、レークプラシッド(米国ニューヨーク州)での研修に向かう途中、インドのある医療施設に立ち寄った。ベロールにあるその施設は、オーストラリア、インド、米国のロータリアンが支援していた。これはロータリーがちょうど、マッチング・グラントと研究グループ交換(GSE)の活動を始めた頃のことである。

会長就任の準備を進めていたレヌーフは、同期の元RI理事マイク・ペドリックから、ボランティアの医師が南米で実施した医療プロジェクトの話聞いた。また、米国ピッツバーグで開かれたロータリー研究会で、感染症の集団予防接種に驚異的な効果を発揮する「ピースガン(平和の銃)」についてロータリアンのロバート・ヒングソンが紹介するのを目にした。こうした経験がレヌーフの頭の中で形となり始めたのは、1978年2月、レヌーフが次期会長として理事会会合に出席したときのことであった。ロータリー史上最も重要な会合の一つとなったこの会合で、バミューダ出身のジャック・デービスRI会長の招きにより、Brother's Brother財団の創設者兼医療責任者を務めるヒングソンが「ピースガン」について理事に説明したのだ。高圧力で溶液を肌に

浸透させるこのガンは、1時間に1,000人の予防接種を可能にするものであった。従来の使い捨て注射器による集団予防接種よりも、はるかに大きな改善である。ヒングソンは自らが設立した財団の活動について力強く語り、ピースガンの使用方法を実際に披露してみせた。その上で、子どもたちの予防接種のために、ロータリーとBrother's Brother財団が提携することを提案した。

デービス会長は続いて、2年後に控えたロータリー創設75周年を祝う特別キャンペーンについて持ちかけ、75周年に大きなインパクトを与えるアイデアはないかと理事会に問いかけた。発展途上国の子どもたちの保健問題に特に強い関心を抱いていたデービス会長は、翌1979年が「国際児童年」であり、1980年代を国連が「Decade of the Child (子どものための10年)」に指定していたことから、「1978年国際大会で(小児疾患をなくすことに)重点を置いたプログラムを発足させてはどうか」と尋ねた。その晩、レヌーフは夜更けまでペンを走らせ、2年間にわたる75周年記念基金を創設する提案書を書き上げた。その基金は、クラブや地区が単独で取り組むには大きすぎる国際奉仕プロジェクトを支援するものであった。また、ロータリアンが自らの時間や能力をボランティアで提供するなど、プロジェクトへの直接的な関与を促すものでもあった。翌朝、レヌーフの提案書を読んだデービス会長はこれを気に入り、ほかの理事にも読み上げて紹介した。提案は理事会で承認され、次回の東京国際大会でロータリー世界に発表することをデービス会長は約束した。

(執筆：デイビッド C. フォワード My Rotaryより)

♪本日のロータリーソング♪

「 我等の生業 」

我等の生業さまざまなれど
集いて図る 心は一つ
求るところは 平和 親睦
力むるところの向上奉仕
おおロータリアン 我らの集い

「 たき火 」

垣根の 垣根の 曲がり角
たき火だ たき火だ 落葉たき
あたらうか あたらうよ
北風ひいふう ふいている

山茶花 山茶花 咲いた道
たき火だ たき火だ 落葉たき
あたらうか あたらうよ
霜焼け おててが もうかゆい